

2025年10月16日

日本石鹼洗剤工業会事務局

ご担当者様

カナリア・ネットワーク全国

共同代表 青山和子

深谷桂子

世話人一同

面談の仲介のお願い

度々の誠実なご返信を恐縮に存じます。

2025年7月27日付の「移香被害の実態に関するアンケート」やその他の情報を貴工業会の会員社に共有いただきまして、ありがとうございました。

さて、香料成分を長持ちさせる徐放技術（いわゆるマイクロカプセル類）が製品に用いられ始めた2010年代から、柔軟剤、消臭剤、合成洗剤の香り（臭気）が契機となり、慢性的に同じ健康障害が繰り返される「化学物質過敏症」の発症者が増加しています。

発症当初は、それが「香害」によるものと認識している人は少なく、何度も同じ症状を繰り返し、種々の診療などを受けた結果、自身の症状の発現と、柔軟剤、合成洗剤、消臭剤と関係があることを体感し、また医師もそれを認め診断に至っています。

各種有機溶剤、たとえば塗料や薬品であれば、通常、私たちはある一定量、一定時間を超えての摂取や曝露を控えます。しかし、生活用品は、各メーカーの安全基準に則り提供されており、一般にはその点を信頼しております。そこで、症状の発現から、柔軟剤等が身体に影響していると確信するまでには時間がかかります。

そのため、「(物質を)避ける、(物質から)逃げる」といった、発症初期に必要な自衛策も取れずに過ぎがちです。初期に「環境」を整えて対処することは、発症者にとっては重要です。社会生活に支障が出るほどに「重症化」をする手前で、症状の悪化を留めることは可能であると考えます。仮に「重症化」しても、物質への曝露が少ない、回復に適切な、「環境」があることで、社会生活もほぼ取り戻すことは可能です。

「柔軟剤などが凶器である」「生活に行き詰まり自殺を考えた（実際に実行された方は複数例あります）」「家族を崩壊させた」という方たちは、その原因である商品、メーカーに対して強い憤りを感じております。

こうした憤りを持つ方の多くはいわゆる「重症化」に至った方たちです。この「重症化」を防ぐ手立てを、洗剤メーカーの方たちとともに考えることはできないでしょうか。

「STOP! マイクロカプセル香害」の声は、今は一部からの訴えですが、深刻な被害の声は増えるばかりで、すでに被害の声はマスコミなどでも報道されています。また、消費者庁等による国の香害啓発ポスターでも「香料」被害があることを伝えています。

現状を見るに、単に科学的なことを盾に「根拠なし」という話で収束する問題ではありません。同時に、「香害」は、嗜好の問題ではなく、人権問題であることの認識が広がってきています。

洗剤メーカー各社の方々は、柔軟剤などに「香り長持ち」を謳い、製品を作り、販売していた責任を再考し、早急に、発症者、被害者とともに対応策をお考えくださらないものでしょうか。これは、将来にわたって、メーカー各社が消費者からの信頼を得ることにとも関わる事柄と思われまます。

最小の被害で抑えるには、まず被害の声をしっかりと聴取いただくことから始まると考えます。「カナリア・ネットワーク全国」では、これまでの発症者、健康被害を受けている人たちの声を集約しています。

そこで、会員の洗剤メーカー各社が、私どもとの面談に応じてくださるよう、貴工業会事務局で御仲介いただけないでしょうか。

対策について具体的なご提案をもって向かうよう努めます。

「誰一人取り残さない」SDGsを謳うメーカー各社の皆さまにおかれましては、様々な影響を鑑みて、面談のご検討をいただけますようにと、お伝え願います。

この「お願い」へのご回答は、2025年11月15日までに、下記、連絡先までにお知らせいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、頂戴したご回答は、当団体ホームページ等で公表させていただきます。

<連絡先：カナリア・ネットワーク全国事務局>

<https://canary-network.org/member/contact/>

